

海のいのち

立松 和平

めあて

「海のいのち」の学習の見通しをもつ。

「海のいのち」

「ぼくは漁師になる。」

父が生きた海に、太一もまた生きようとした。

七十一ページの挿絵を拡大

・太一が漁師になる話
・死んだ父の代わりに漁師になった太一の話
・海に生きる生命を、太一が漁師という仕事を通して感じていく話 など

単元のねらい

- 一、登場人物の生き方を中心に感想をまとめる。
- 二、読み取ったことを生かし、方法を選んで学習する。

てびき（学習方法を選ぶ）

◎1ポスター・セッションをする。

2読書会をする。

3「語り」発表会をする。

ポスター・セッション

目的 ①自分が読み取ったことを相手に伝えるため

②友達の発表を聞き、感じ方のちがいに気付きながら自分の読みを深めるため

自分の読みを深めるため

ポスター作りで確認したい力

○物語のあらすじをとらえる力


○物語の主題をとらえる力

○すぐれた表現について自分の考えをまとめる力

ポスター・セッションで確認したい力

○自分の考えを分かりやすく説明する力

○感じ方のちがいに気づきながら友達の発表を聞く力

物語の主題	
	
最も大切だと思う一文	
あらすじ	人物の生き方や考え方に対する自分の感想

- 1/11 時間目 指導略案 使用するワークシート…①
- 活動のねらい

単元のねらいや「てびき」を基にして、単元の見通しをもてるようにする。

1 教科書七十一ページの文章と絵を見て、物語の内容を想像する。

① 題名、文章、挿絵を見て、どのような物語なのかを自由に想像する。

② グループや全体で想像したことを発表する。

2 学習の見通しをもつ。

① 教科書七十二ページ冒頭部分にある単元のねらいを確認する。

② 本文を通読し、どのような内容であったか大まかにつかむ。

③ 学習の方法を選ぶために、教科書八十三ページの「てびき」を確認する。

* 本プランでは、伝記「宮沢賢治」の学習での経験を生かして、ポスター・セッションを選択しています。学級の状況に合わせて「読書会」、「語り」発表会」を選択してもよいと思います。

3 ポスター・セッションのやり方やそのねらいを確認する。

○ ポスター・セッションで使用するポスターについて、実物（教師の手作り）を提示しながら理解させる。

○ ポスターに書き入れる項目について実物を示しながら、どのような力が必要なのかを理解させる。

- ・ あらすじ・物語のあらすじをとらえる力
- ・ 主題・物語の主題をとらえる力
- ・ 大切な一文と感想・すぐれた表現について自分の考えをまとめる力

○ ポスター・セッションを行うために必要な力についても理解させる。

- ・ 自分の考えを分かりやすく説明する力
- ・ 感じ方の違いに気づきながら友達の発表を聞く力

評価 単元のねらいや「てびき」を基にして学習への興味をもち、単元の見通しをもつとしてしている。

4 学習を振り返り、自己評価をする。

* ポスター・セッションの経験がない場合は、本サイトの「4単元の計画」の第1時の欄に「言語活動参考資料のページへ」としてリンクを設定しています。そちらに資料があるので参考にしてください。

海のいのち ワークシート①

名前

〇めあて

「海のいのち」の学習の見通しをもとう。

〇「海のいのち」はどんな物語か、想像してみよう。

--	--	--

〇ポスター・セッション

目的

- ◎自分が読み取ったことを相手に伝えるため
- ◎友達の発表を聞き、感じ方のちがいに気付きながら自分の読みを深めるため

〇この「海のいのち」の学習で確認したい自分の力

■ポスター作りで確認したい力

○	○	○
---	---	---

■ポスター・セッションで確認したい力

○	○
---	---

【学習のふり返り】 ◎よくできた ○まあまあできた △もう少し

ふり返ること

自己評価

■ 学習の見通しをもつことができましたか。	◎ ○ △
■ ポスター・セッションの目的を理解することができましたか。	◎ ○ △

【物語の主題】

どんな物語か一言で書く。

人と動物の心のつながり

大造じいさんとガン
椋鳩十 作



そうして、おれたちは、
また堂々と戦おうじゃあ
ないか。

ガンの頭領として、命をかけて
仲間を守ろうとする残雪。その思
いに気づき、動物である残雪を
ライバルとして認めていく心の動
きが、この大造じいさんの言葉
につままっていると思います。

【あらすじ】

狩人である大造じいさんは、ガンを手に入れるためにいろいろな作戦を考えます。そして、おとりのガンを使った作戦で、残雪をうつつチャンスがやってきました。しかし、残雪のひたむきな行動を目にした大造じいさんは、じゆうをおろしてしまいます。

【あらすじ】

物語の大体を短くまとめて書く。

自分が作ったポスターを使って、友達に自分の考えや感じたことを根きよや理由をはつきりさせて説明しよう。



【大切だと思う一文と自分の感想】

自分がこの物語の中で大切だと思った文に対して、なぜそう思ったのかを書く。

海のいのち

立松 和平

めあて

初発の感想をもとにして、「海のいのち」の学習計画を立てよう。

登場人物 太一（主人公）

おとう、与吉じいさ、クエ、おかあ

読み深めたいこと

父や与吉じいさの生き方と太一の生き方
「千びきに一びき」や「海のいのち」の意味 など

文章構成

起 あこがれの父を亡くした場面

承 与吉じいさに学ぶ場面

転 クエと出会い、太一の思いが転換する場面

結 結婚し、村一番の漁師として生きる場面

発表会	ポスター・セッションの準備					「海のいのち」を読む				計画立て		時
11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
ポスター・セッションを行う	発表の準備をする					「起」の部分を読む 太一とおとうの人物像を読み取る				学習の計画を立てる		学習内容
		ポスターの準備をする			「結」の部分を読む 太一の成長から登場人物の役割をふり返り、「海のいのち」の主題を考えよう		「承」の部分を読む 与吉じいさの人物像について考えよう		「転」の部分を読む 太一の心が変化するクライマックスの一文を見つけよう			
		ポスターの主題			「結」の部分を読む		「承」の部分を読む		「転」の部分を読む			
		・あらすじ			「結」の部分を読む		「承」の部分を読む		「転」の部分を読む			
		・心に残った一文			「結」の部分を読む		「承」の部分を読む		「転」の部分を読む			
		・感想			「結」の部分を読む		「承」の部分を読む		「転」の部分を読む			

2/11 時間目 指導略案 使用するワークシート：②
活動のねらい

登場人物、文章構成をとらえ、ポスター・セッションの目的を達成できる単元の学習計画を立てるようになる。

1 本時の見通しをもつ。

○ 前時のポスター・セッションで確認したい力を思い出させ、ポスター・セッションの目的を達成できる学習計画を立てることを確認させる。

2 全文を通読し、物語の登場人物や文章構成を確認する。

① 登場人物や文章構成などに気を付けながら全文を読む。

② あらすじ、登場人物を確認する。

○ 登場人物の中の「主人公」「その他の登場人物」などを押さえるようにする。

* 主人公は「物語のはじめと終わり」で考えや行動が大きく変わる登場人物」ととらえさせていきます。登場人物の相互関係をとらえさせるためにも、物語における主人公とはどんな登場人物なのかを明らかにしておく必要があります。

③ 全文の文章構成を「起・承・転・結」の四つに分け、学習計画を立てる。

* 学習指導要領解説（平成二十年八月）の中には「状況設定」「発端」「事件展開」「山場」「結末」が物語の文章構成の例として挙げられています。ここでは、これまでの学習経験から「起承転結」を用いています。

3 四つの場面を読み取る時間とポスター・セッションにかかる時間を考えて、学習計画を立てる。

○ 学級全体で話し合いながら、各時間の主たる活動や読み取る時間の学習のめあてを考えさせることで、単元全体の学習の見通しをもたせるようにする。

* 本時において、ポスター・セッションの発表を全員が行うことを知らせておきます。そうすることで、目的意識をもたせた物語の読み取りやポスター・セッションの準備に取り組ませることができると考えます。

評価 登場人物、文章構成を基にして、ポスター・セッションまでの学習計画を立てることができている。

4 学習を振り返り、自己評価をする。

海のいのち ワークシート②

名前

〇めあて

初発の感想をもとにして、「海のいのち」の学習計画を立てよう。

〇文章を「起承転結」の四つの部分に分けよう。

構成	場面	登場人物
起	幼い太一とおとうが登場する場面	
承		
転		
結		

〇学習計画を立てよう。

発表会	ポスター・セッション準備	「海のいのち」を読む				計画立て		時間
		6	5	4	3	2	1	
11	10 9 8 7	「結」の部分を読む	「転」の部分を読む	「承」の部分を読む	「起」の部分を読む	学習計画を立てる	学習の仕方を確認する	学習内容
ポスター・セッションを行う	<ul style="list-style-type: none"> ポスターを準備する 物語の主題 心に残った一文 発表の準備をする 感想 	「結」の部分を読む	「転」の部分を読む	「承」の部分を読む	「起」の部分を読む	学習計画を立てる	学習の仕方を確認する	学習内容
根きよや理由をはっきりさせて発表しよう。 感じ方のちがいに気を付けて聞こう。	発表の練習をしよう。	登場人物の役割を考えよう。 作品の主題を考えよう。				学習の見通しをもって、計画を立てる。		めあて

【学習のふり返り】 ◎よくできた ○まあまあできた △もう少し

ふり返ること

自己評価

■文章の構成を「起承転結」に分けてを考えると

◎ ○ △

■学習の見通しをもつことができましたか。

◎ ○ △

海のいのち

立松 和平

めあて

太一とおとうの人物像を読み取ろう。

父もその父も、その先ずつと顔も知らない父親たちが住んでいた海に、太一もまた住んでいた。

太一の絵 (71 ページ挿絵) のコピー

- ・「おとうといっしょに海に出るんだ。」
- 父のことが大好き
- 父を尊敬している
- ・父の死
- 父のかたきをうちたい
- 父のような漁師になりたい

おとうの絵 (73 ページ挿絵) のコピー

- ・だれももぐれない瀬にもぐるもぐり漁師
- ・ニメートルもある大物をしとめても自まんすることもない
- ・「海のめぐみだからなあ。」



すゝいもぐり漁師
海に感謝している漁師

3 / 11 時間目 指導略案

使用するワークシート：③

活動のねらい

「起」の部分を読み、太一やおとうの人物像を読み取ることができるようになる。

1 本時の見通しをもつ。

- めあてを知り、太一とおとうの人物像をとらえることを確認する。

2 本文冒頭から七十三ページ十三行目まで（「起の部分」）を読み、太一やおとうについて読み取る。

- ① 物語の冒頭の段落を読む。
- 一文目の意味について簡単に考えさせる。
- * 物語の冒頭には、場面や登場人物の設定が書かれていることが多く、意識して読ませるようにします。また、物語の展開やクライマックス、結末などに大きくかわる「しかけ」が含まれていることもよくあります。「海のいのち」では〈父〉〈住んでいた海〉といった言葉が物語の主題に大きくかかわっているキーワードとなっています。これまでの学習で「しかけ」などを十分に理解していない場合は、ここはいつもどおりに読ませておき、学習を進めていく中で、重要な役割をもった文や言葉が物語の冒頭に書かれていることに気付かせるようにしていくとよいでしょう。
- ② 太一とおとうの人物像が分かる根拠となる部分に線を引きながら読む。
- ③ 線を引いた部分からそれぞれの人物像について想像できることを、ワークシートに記入する。

【発問】おとうはどんな漁師ですか。

- 本文の記述から考えられる人物像について発表させる。

【発問】太一はどんな思いをもった子どもですか。

- 会話文や父の死から、太一の心情や「起」の部分における主人公の人物像について考えさせる。

評価 太一やおとうの人物像を読み取り、「起」の部分の物語文における役割を考えることができる。

3 学習を振り返り、自己評価をする。

名前

○めあて

○物語の最初の文の意味を考えてみよう

父もその父も、その先
ずつと顔も知らない父
親たちが住んでいた海
に、太一もまた住んで
いた。

○太一とおとうの人物像を読み取ろう

根きよとなる部分

太一

根きよとなる部分

おとう

想像できること

想像できること

【学習のふり返り】 ◎よくできた ○まあまあできた △もう少し

ふり返ること

自己評価

■ 物語の最初の文の意味を考えたことができたか。

◎ ○ △

■ 人物像を根きよの文から想像することができましたか。

◎ ○ △

海のいのち

立松 和平

めあて

与吉じいさの人物像について考えよう。

与吉じいさの絵
(75 ページ挿絵)
のコピー

- ・ 一本づりの漁師
- ・ 父がもぐっていた瀬で漁を行っている
- ・ 千びきに一ぴきでいい
- ・ 二十ぴきとれば漁を終える
- ・ もう、魚を海に自然に遊ばせてやりたくなっとる

生きるために最低限の魚をとる漁師
海で生きていく方法を知る漁師

「千びきに一ぴきでいいんだ。千びきいるうち一ぴきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」

- ・ 海で生きていくには、海を守ることも大切だ
- ・ 先祖から受けついでこの海を次の世代につなげたい
- ・ 自分が生きていくために必要な分だけ海のいのちをとるのだ

尊敬…漁師としての心構えや技術
感謝…海での生き方を学ばせてもらったこと

おとう うみのめぐみだからなあ

与吉じいさ 千びきに一ぴきでいいんだ

海に生きている。
海によって生かされている。

4 / 11 時間目 指導略案

使用するワークシート…④

活動のねらい

「承」の部分を読み、与吉じいさの人物像や生き方について読み取ることができるようにする。

1 本時の見通しをもつ。

- めあてを知り、与吉じいさの人物像や生き方について読み取ることを確認する。

2 本文七十三ページ十四行目から七十六ページまで（「承」の部分）を通読し、与吉じいさの人物像や生き方を読み取る。

- ① 与吉じいさの人物像や生き方が分かる根拠となる部分に線を引きながら読む。
- ② 線を引いた部分から与吉じいさの人物像や生き方について想像し、ワークシートに記入する。

【発問】与吉じいさはどんな漁師ですか。

- 本文の記述から考えられる人物像について発表させる。

- ③ 「千びきに一ぴき……ずっとこの海で生きていけるよ。」の言葉の意味について考える。

【発問】「千びきに一ぴき……ずっとこの海で生きていけるよ。」の言葉には与吉じいさのどのような思いが込められているのでしょうか。

- 「この海」、七十六ページ四、五行目の「ここはおまえの海だ」にある与吉じいさの

「海」のとらえ方について考えさせるようにする。

- ④ 太一の与吉じいさに対する思いを考える。

【発問】太一は与吉じいさの事をどう思っているでしょう。

- 七十六ページ九行目の会話文を中心に与吉じいさに対する太一の思いを考えさせる。

3 「おとう」と「与吉じいさ」の漁師としての考え方の共通点を考える。

- ・ 共通点 「海のめぐみ」「千びきに一ぴき」といった海で生きていくための考え方の相違点として、おとうや与吉じいさの漁の仕方や亡くなる時の様子を考えさせることも考えられる。太一の成長との大きなかわりが見えてくる。

評価 与吉じいさの人物像や生き方を、叙述から読み取ることができる。

4 学習を振り返り、自己評価をする。

〇めあて

〇与吉じいさの人物像を読み取ろう

根きよとなる部分

与吉じいさ



想像できること

〇与吉じいさの言葉の意味を考えてみよう

「千びきに一びきでいいんだ。千びきいるうち一びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」

〇おとうと与吉じいさの漁師としての考え方の共通点を考えよう

おとう

与吉じいさ

【学習のふり返り】 ◎よくできた ○まあまあできた △もう少し

ふり返ること

自己評価

■ 与吉じいさの人物像を考えることができましたか。

◎ ○ △

■ 与吉じいさとおとうの同じところやちがうところを比べることができましたか。

◎ ○ △

海のいのち

立松 和平

めあて

太一の心が変化するクライマックスの一文を見つけよう。

母の言葉

- ・おそろしくて夜もねむれない
- ・おまえの心の中が見えるようで
- 太一の様子
- ・母の悲しみさえも背負おうとしていた

・おとうのかたきをうつ

- ・おとうの瀬にもぐるんだ。
- ・かたきをうつ

○この大魚は自分に殺されたがっているのだと太一は思ったほどだった。

○これまで数限りなく魚を殺してきたのだが、こんな感情になったのは初めてだ。

○水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。

○もりの刃先を足の方にどけ、クエに向かつてもう一度えがおを作った。

・太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。

ここには、子どもが発表した文を書きまします。書き出したうえで、思いが変化する部分を児童に議論させます。

5/11 時間目 指導略案

使用するワークシート：⑤

活動のねらい

「転」の部分を読み、太一の言動から心情の変化をとらえることができるようにする。

1 本時の見通しをもつ。

- めあてを確認し、太一の心情の変化をとらえて、クライマックス部分を見付けることを確認する。

2 本文七十七ページを読み、母の思い、太一の思いを考える。

- ① 母の思いから推測される太一の思いを考え、変化する前の心情（父のかたきを討ちたい）を共通理解する。
- ② 太一の思いと八十二ページ一行目の文を比較して、心情の変化があったことを確認する。

3 本文七十八ページ一行目から八十二ページ三行目までを読み、物語のクライマックスを見付ける。

- ① 太一の心情が読み取れる叙述に線を引きながら通読する。
- ② 線を引いた部分での太一の心情を考えながら、心情が変化するクライマックス部分の一文を見付け、その理由とともにワークシートに書く。

4 クライマックス部分について話し合う。

- ① 自分が選んだ文とその理由を、ペア又は少人数グループにおいて発表する。
- ② 自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、変更や追加があればここで修正させる。
- ③ 全体でクライマックス部分について話し合い、一番適切なものを決定する。
- ④ 選んだ一文を発表させ、いくつかの候補に絞る。
- クライマックス部分だと考えた理由を述べ合い、一番適切な一文を話し合う。

評価 物語の構成における「転」の場面から、太一の心情の変化を読み取り、クライマックス部分をとらえることができる。

5 学習を振り返り、自己評価をする。

〇めあて

〇母の言葉や太一の様子から、太一の思いを想像しよう

母の言葉・太一の様子

「おまえが、おとうの死んだ瀬にもぐると、いつ言いだすかと思うと、わたしはおそろしくて夜もねむれないよ。おまえの心の中が見えるようです。」

太一は、そのたくましい背中に、母の悲しみさえも背負おうとしていた。

太一の思い

〇太一の思いが変わるクライマックスの一文を見つけよう

クライマックスの一文はこれだ！

そう考える理由

こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。

【学習のふり返し】

◎よくできた

〇まあまあできた

△もう少し

ふり返ること

自己評価

■ クライマックスの一文を選び、理由を考えることができ
ましたか。

◎ ○ △

■ 自分の考えと友達の考えを比べながら、話し合うことが
できましたか。

◎ ○ △

海のいのち 立松 和平

めあて

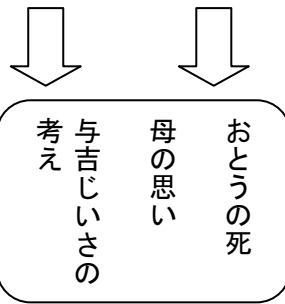
太一の成長した姿から登場人物の役割と、「海のいのち」の主題を考えよう。

子供…元気でやさしい子供たち

母…おだやかで満ち足りた、美しいおばあちゃん

太一…村一番の漁師であり続けた

千びきに一びきしかとらない



「海のいのち」の主題

ここでは、主題を考えることがまだ十分でない子どもたちを集めて、キーワード探しまでの流れを一緒に行うことが考えられます。

大切だと思う言葉や文

- ・父もその父も、その先ずっと顔も知らない父親が住んでいた海に、太一もまた住んでいた。
- ・海のめぐみ
- ・千びきに一びき
- ・この海で生きていける。
- ・おかげさまでぼくも海で生きられます。
- ・とうとう父の海にやってきたのだ。
- ・数限りなく魚を殺してきた
- ・本当の一人前の漁師
- ・大魚はこの海のいのちだと思えた。
- ・村一番の漁師であり続けた。
- ・海のいのちは全く変わらない。

主題のキーワード



6/11 時間目 指導略案 使用するワークシート…⑥

活動のねらい

他の登場人物の存在が太一の成長に大きくかわっていることをとらえ、「海のいのち」の主題を考えることができるようにする。

1 本時の見通しをもつ。

- めあてを知り、太一の成長がどの登場人物に大きく影響されているのかを考え、その後に、「海のいのち」の主題について考えることを確認する。

2 本文八十二ページ四行目から最後まで（「結」の部分）を読み、太一の成長した姿や漁師としての考え方が、どの登場人物の影響を受けたのかを考える。

- ① 本文を読み、太一の生き方がどのように変わったかを読み取る。
 - ② 太一の生き方の変化は、他の登場人物のどのような部分に影響を受けたのか考える。
- 【発問】太一の成長は他の登場人物のどのような部分に影響を受けていると思いますか。
- 各場面の登場人物の言動を振り返らせ、自分なりに影響を受けていると考えられる部分をワークシートに書かせる。
 - ③ 考えたことを発表する。
 - 登場人物の存在が太一の成長に大きくかわっていることに気付かせるようにする。

3 「海のいのち」の主題を考える。

- ① 自分が大切だと思う言葉や文を選び出す。
- 大切だと思う言葉や文を抜き出させたり、自分なりに感じている主題のキーワード（「海」、「いのち」など）にかかわる言葉や文を探させたりする。
- ② 選んだ言葉や文を根拠に主題を考える。
- ポスターに書き込むことを前提に、「遠い昔から受けつがれてきた海」「つながるいのち」など体言止めで作品の主題に合うように考えさせる。
- ③ 少人数のグループで、考えを交流する。
- 自分の考えた主題とその根拠などを明確にしながら発表させる。聞き手は自分の考えと比べながら聞かせるようにし、全員終了後に感想を交流させる。

評価 「海のいのち」の主題について、自分なりに根拠をもって考えることができる。

4 学習を振り返り、自己評価をする。

名前

〇めあて

--

〇太一の生き方の変化は、他の登場人物のどのような部分に影響を受けているのか考えましょう。

(生き方の変化の部分を本文からぬきだし、その部分に影響があると思う登場人物を下のらんに書きましょう。)

太一の生き方の変化

--

登場人物

影響を受けた部分

--

--

〇「海のいのち」の主題を考えよう

大切だと思う言葉や文

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

キーワード

--

主題

--

【学習のふり返し】 ◎よくできた ○まあまあできた △もう少し

ふり返ること

自己評価

■ 太一の成長と登場人物の役割をつなげて考えることができましたか。

◎ ○ △

■ 自分なりに「海のいのち」の主題を考えることができましたか。

◎ ○ △

「海のいのち」ポスター・セッションに向けて

めあて

「海のいのち」のポスターを作成しよう。

ポスター作りのポイント

「海のいのち」を読み返す。(書くことを決める)

- ・物語が自分に強く語りかけてきたこと
- ・人物の生き方や考え方
- ・最も大切だと思う一文

書く内容をワークシートに下書きする。

- ・主題
- ・あらすじ
- ・人物の生き方や考え方に対する自分の感想
- ・最も大切だと思う一文

ポスターの絵、レイアウトを考え、ポスターを作る。

ポスター・セッションの準備をする。

- ・説明する内容をまとめる
- ・発表の練習をする
- 発表時間 3分
- 質問や感想 5分
- 発表のはじめと終わりの言葉

活動のねらい

物語の人物の生き方や考え方に自分なりの感想をもち、作品のポスターを作成することができるようにする。

* ここでは四時間の計画で行っていますが、学級の状況に合わせて時数を増減したり、家庭学習を利用したりすることが考えられます。

1 本時の見通しをもつ。

- 第一時に行ったポスターやポスター・セッションのやり方を確認し、ポスター作りの見通しをもたせる。

2 ポスターを作成する。

- ① 本文を読み返したり、これまでの学習で使ったワークシートを見たりして、主題、あらすじ、人物の生き方や考え方、最も大切だと思う一文を自分なりにとらえる。
- ② ポスターに書く内容をワークシートにまとめる。
- 主題、あらすじ、最も大切だと思う一文、人物の生き方や考え方に対する自分の感想を書かせる。主題やあらすじの字数は多くならないようにまとめさせる。
- * 考えが進まない児童に対しては、次のような支援を行うとよいでしょう。
- 主題：児童が考えている内容を確認し、教師が文末表現を提示することで文を整えさせる。
- あらすじ：物語の「起・承・転・結」のそれぞれから主人公の行動と心情の変化をまとめさせる。接続語や時間を表す言葉も適宜助言する。

- ③ ポスターに使用する絵、レイアウトを考え、ポスターを作成する。
- * 絵については、直接書かせる方法と教科書の挿絵のコピーを使う方法があります。学級の実態に応じて工夫してください。

評価 物語の人物の生き方や考え方に自分なりの感想をもち、主題やあらすじなどをまとめて、ポスターを作成することができる。

3 ポスター・セッションで説明する練習をする。

- 発表の時間、質問や感想の時間、発表のはじめと終わりの言葉などを確認すること、計画的に練習を進めさせるようにする。

4 学習を振り返り、次の時間に行うことを確認する。

名前

○発表用メモ

15秒	2分30秒					15秒	時間
から、これで、私の発表を終わります。みなさんから、質問や感想はありますか。						て今から、私が考えた「海のいのち」について発表を行います。	話す内容（必要なことだけを書く）
<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正す ・間き手を見る 						<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正す ・間き手を見る 気をつけること	

【学習のふり返し】 ◎よくできた ○まあまあできた △もう少し

ふり返ること

自己評価

<p>■ 話す内容を考えて、発表用メモを作ることができましたか。</p>	◎ ○ △
<p>■ 自分の考えをはっきり伝えるための練習ができましたか。</p>	◎ ○ △

「海のいのち」ポスター・セッション

めあて

説明役

自分の考えが聞き手に伝わるように説明する。

○根きよや理由をはっきり

○ポスターの示し方など伝わる話し方

聞き役

友達と自分の感じ方のちがいに注意して聞く。

○感じ方のちがうところや同じところに注意

○感想：相手の考えを認めながら

発表準備

説明役の発表：三分

聞き手の感想：五分

場所移動

発表の順番

聞きながらメモするのが難しいようなら、発表後にメモを書く時間を1～2分位置付けてもよいでしょう。

一回目 Aグループ ○時〇分～〇時〇分（十分）

二回目 Bグループ ○時〇分～〇時〇分（十分）

三回目 Cグループ ○時〇分～〇時〇分（十分）

学習のふり返り

11 / 11 時間目 指導略案

使用するワークシート：⑨（聞き取りメモ）
⑩（単元の振り返り）

活動のねらい

発表する内容を分かりやすく説明したり、友達と自分の感じ方の違いに注意しながら聞いたりすることができるようになる。

*（ここでは一時間の計画になっていますが、学級の状況に合わせて時間数を増やすことも考えられます。）

1 本時の見通しをもつ。

○説明役と聞き役になったときのめあてとポスター・セッションの進め方の確認をする。

2 ポスター・セッションを行う。

①説明役がポスターを示しながら物語が最も強く語り掛けてきたことについて、自分の考えを説明する。

②聞き役は、説明役の発表に対し、感じ方の違いに注意しながら聞き、感想を述べる。

○聞き役には聞き取りメモを取らせるようにし、感想を述べる際に利用させるようにする。

③説明役が聞き役に感想を求め、聞き役は自分と感じ方の違うところや同じところを挙げながら感想を交流する。

○友達との考えの違いを受け止め、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながるように示唆する。

○時間が足りず感想が言えなかったときには、付せんに感想を書かせ、場所移動の際に説明役に渡すようにさせる。

*この①②③の活動を全員の発表が終わるまで繰り返す。

評価 発表する内容を根拠や理由を明確にして説明することができる。（説明役）

友達の発表を自他の感じ方の違いに着目して聞くことができる。（聞き役）

3 本時の学習を振り返り、自己評価をする。

4 単元の振り返りをする。

○本単元の学習の目標に照らしながら、本単元の学習を振り返らせる。

*教科書では、このあと同じ作者（立松和平）についての読み広げが計画されています。本プランでは、並行読書として本単元が始まる前から関連図書を教室に置いて読ませるようにしました。学級・学年の状況に合わせて行ってください。読み広げを行う際には、関連図書のチェック表を作成し配布しておく、子どもたちの読書意欲も高まるでしょう。

名前

〇めあて

「説明役」自分の考えが聞き手に伝わるように説明する。
 「聞き役」友達と自分の感じ方のちがいに注意して聞く。

◆聞き取りメモ

	説明役	同じところ	ちがうところ
4			
3			
2			
1			

【学習のふり返り】

◎よくできた ○まあまあできた △もう少し

ふり返ること

自己評価

<p>■ 聞き手に伝わるように説明をしたり、質問に答えたりすることができましたか。</p>	◎ ○ △
<p>■ 友達と自分の感じ方のちがいに気を付けて聞き、質問や意見进行交流することができましたか。</p>	◎ ○ △

◆この学習全体で身に付けた力を確認しましょう。

(下のらんに◎○△を書きましょう)

身に付けたい力						
話す・聞く		書く		読む		
	友達の考えを聞き、考えのちがいを認めながら、自分の考えを深めることができましたか。	ポスターのレイアウトを工夫することができましたか。	字数や必要なことから気に付けて、ポスターの内容を書くことができましたか。	立松和平の他の作品を「海のいのち」と比べながら読むことができましたか。	人物の生き方や考え方を、想像しながら読むことができましたか。	文章構成（起承転結やクライマックスなど）をとらえて読むことができましたか。

◆がんばったことやこうすれば良かったと思ったこと、楽しかったことなどを書きましよう。

--	--	--	--

◆この学習でためになったことやこれからの学習や生活の中で生かせそうなことなどを書きましよう。

--	--	--	--